

【子育て談話室】テーマ：教え（親からもらった生涯の宝物）

「思春期とは、激流を渡るようなものである」という言葉があります。自我が芽生え、自己アイデンティティを確立しようともがいている時期でもあります。それ故、特に親の言うことに対して、反感を持ったり、時には反抗したりすることもあろうかと思えます。

それでも、幼い頃から親に教えてもらったことは、いくつになっても覚えているものであり、社会を生き抜くために大切な指針になっているものです。ある歌に、「おまえもいつかは世の中の傘になれよと、教えてくれたあなたの真実」という歌詞があります。母親をテーマにした曲ですが、この歌詞には母親の我が子が人のために生きられる、心の広い人になって欲しいとの願いが込められていたのだらうと思えます。私が今でも大切にしている、親からもらった教えは、「してもらおう立場よりも、してあげる立場になりなさい。」という言葉です。時に忘れてしまい、愚痴が多くなってしまふことがあります。そんなときは、親から教えてもらった言葉を思い出すようにしています。

思春期の多感な今だからこそ、親の教えが心の深いところで伝わるのだらうと信じています。



質問タイムで学力アップを！

10月5日、6日と2学期の中間テストが行われました。1学期の期末テスト期間中から、各教科の教職員がそれぞれの教室で生徒からの質問を受ける「質問タイム」という時間を30分間設定しています。この30分の時間の中で、質問したい教科の教職員がいる教室に行き、個別に質問に回答してもらおうというものです。残って質問する生徒は、決して多くはありませんが、少人数で生徒に寄り添った指導を受けていました。こうした取り組みから、生徒が日常的に休み時間や昼休みなど教職員に授業で理解が不十分など活発に質問に行くようになってもらえればと期待しています。わからないところはそのままにせず、できるようにしていくことが学力の向上には欠かせません。次回の期末テストの際には、より多くの生徒が「質問タイム」を有効に利用できるようになってほしいと願っています。



タブレット端末活用しています！

昨年度中に導入された1人1台のタブレット端末について、今年度より本格的に授業で使用しています。6月より各教科の授業で、授業の始めの小テストや授業の最後のまとめ、振り返りで、または、コロナ禍でもありますので生徒の学び合いの場面などで各教科で活用する場面を工夫してします。小テストでは、テストが終わり、提出すると自動で採点もできるようになっていています。学び合いの場面では、自分のタブレット端末からクラスの他の生徒の意見などを共有することもできます。今まで、グループごとにホワイトボードに書いて、前に出て発表するといった手順が、タブレット端末を使うと瞬時にでき、時間の効率化にもつながります。

また、10月下旬より毎週金曜日の朝の時間を利用して、タブレット端末の5教科のドリルパークを使って学習する「モーニングスタディ」も予定されています。タブレットで個別にドリルパークを進め、基礎基本の定着や学習意欲の向上を目指していきます。



吹奏楽部東日本吹奏楽コンクール出場壮行会が行われました！

10月7日（木）の朝、吹奏楽部の壮行会が生徒会主催で行われました。吹奏楽部は、9月18日（土）の東関東吹奏楽コンクールで金賞となり、東関東代表として、10月9日（土）に北海道の札幌市で開催される東日本吹奏楽コンクールに出場することになっています。前日に体育館での演奏を撮影し、Zoomで各学級に配信しました。生徒のみなさんは吹奏楽部の素晴らしい演奏に聴き入っていました。

生徒会長より、「みなさんの奏でるハーモニーは人の心を動かす力を持っています」「東日本でも最高のパフォーマンスができるよう東中一同応援しています」と激励のメッセージがありました。

吹奏楽部長より、「先生も含めた二十二名が心をつなげて、一体感のある、悔いの残らない演奏を目指します」「東中の演奏を聴いてくれた人たちに、希望や感動を与えられるような演奏をしたいです」「東日本大会で一金を獲得して、東中に帰ってきます」と東日本吹奏楽コンクールに向けての決意を述べました。



◇校庭放射線量測定結果

9月17日（木）0.067 マイクロシーベルト